

京都教区時報

Home Page <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/>

2・3頁 大聖年閉幕感謝ミサ説教

7頁 奈良地区南部ブロック共同宣教司牧

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



(写真は湖西ブロック共同宣教司牧地区の夏季学校のものです。)

**3
2001**

共同宣教司牧と 小教区統廃合とは違う

共同宣教司牧は、第一に「宣教型の教会」になることが目的ですから、共同宣教司牧によって、いくつかの教会を統合してより大きな小教区を作ることを念頭においているのではありません。その意味で、共同宣教司牧になつてもそれらの小教区の特色、歴史、伝統からくる個性を無くす必要はありません。

しかし、教会内の活動（例えば典礼、信仰教育、滞日外国人の司牧やかれらの共同体参加など）や、教会の外への活動、つまり社会に向けての活動（福祉活動、正義と平和に関する活動、ボランティア活動など）で、もし小教区間の壁が妨げになつて効果的に活動できないのであれば、その壁を無くして小教区固有のやり方を譲り合つて、教会同士の共通の組織や合同の活動を作り出していく必要があるでしょう。

京都司教区大聖年閉幕感謝ミサ(一月五日)説教

大聖年の感謝

京都司教パウロ 大塚 喜直

大聖年の閉幕を告げます。一昨年のクリスマスに、ヨハネ・パウロ二世教皇は、バチカンの聖ペトロ大聖堂の聖なる門を開け、福音書を高くもって、開かれたばかりの聖年の扉を最初に入堂されました。これは、「門であるキリスト」を信じ、その福音を生きる教会の決意を表明するためです。京都教区でも、聖堂の入り口の門の上に掲げる大聖年のシンボルマークを祝別し、一年間、聖堂を出入りする度に、「私は、救い主であるキリストの門を通って御父のもとへ行きます」と信仰告白しました。そして地方教会では今日五日に、この大聖年が終わります。明日六日公現の祭日で教皇は、全世界の大聖年を閉幕されます。

本当に恵み多い、素晴らしい一年でした。長い準備をして、いよいよ始まったと思った一昨年のクリスマスから、あつという間の一聖年はなかつたでしょうか。この大聖年にめぐり合えた摂理を思い、

本当に感謝したいと思います。しかし、恵みの年も私たちの信仰の歩みも終わりはありません。大聖年で感謝し、確認した信仰の歩みと宣教の課題への取り組みは、これから始まるのです。今日のミサも、閉幕という、感謝と新たな旅立ちの出発式でもあります。

司教の司牧書簡

それでも、まず、大聖年に何を生きたか、もう一度ここで思い起こしたいと思います。私は、大聖年を有意義に過ごすために、実行してほしい四つの目標を掲げました。

(1) 父なる神への賛美と感謝の祈りを捧げる。(2) 回心への深い望みと聖性へ。真のあこがれを持つ。(3) 記憶を清め、すべての人との和解と平和の道具になる。(4)隣人、特に最も貧しい人々と連帯する。

これら、すべては、聖年に限らず、キリスト者として、常に持ち

つづけるべき姿勢です。

大聖年は、まず神の救いの業を感謝し、父なる神への賛美を捧げます。そして、私たちは、この救

ていく責任を果たすため、洗礼の恵みを教会を通して受け、各時代、各世代の人々に信仰を伝えます。神から選ばれ、派遣されていることをしっかりと自覚しました。

大聖年はまた、争う人々の和解

の年です。すべての人が、神を父として、互いが兄弟として生きるよう、神と人への負い目を素直に認め、ゆるしを願いました。少しほ、家族、身近な隣人、地域、教会共同体など、お互い傷つけたり、憎み合い、無視していた相手とゆっくり出会い、心を開く機会がもてたでしょうか。

国際社会では、韓国の南北統一に向けて大きな進歩がありました。和解の年にふさわしい出来事でした。

しかし、一方九月の中東和平の挫折が世界のここを暗くしていくのに、ふさわしい出来事でした。またが、昨日のニュースで、アラブ首長国連邦議長が米国の提案を条件つきながら受け入れる用意を表明し、年が明け、和平への一抹の希望が見えてきました。何とか、う

あらたな決意

京都教区は、第二バチカン公會議によって始まっている現代教会のこの歩みを確かめ、一九八一年の京都教区のビジョン「社会と共に歩む教会」の精神の継承を、神様に約束しました。特に「弱い立場に置かれた人々」への関わりを最優先に行う宣教の基本方針は、一層の重要性を帯びています。

そこで大聖年を終えた今日から、京都教区民が力と知恵と勇気を持って、二十一世紀の福音宣教に邁進していくために、今日私たちは新たな決意をいたします。そこで、京都教区民が力と知恵と勇気を持って、二十一世紀の福音宣教に邁進していくために、今日私たちは新たに公会議の現代世界憲章、三項のことばを思い起こします。それは、「教会が望むことはただ一つ、すなわち、真理を証明するために、さばくためではなく救うために、仕えられるためではなく、仕える

まくいくように祈りたいものです。

そして、第四の「貧しい人々との連帯」は何よりも、人々の悲しみ、苦しみ、訴えを聞くことから始まります。教会は、この福音的なメッセージの使命を再確認し、社会から見捨てられた弱く貧しい人と優先して連帯することを、心と頭と手と足で、受留めます。

ために、世に来られたキリストご自身の仕事を、慰め主なる聖靈の導きのもとに続けること」です。今日のミサの最期に、その決意の祈りをしましょう。

恵みの時に巡り合えた摂理

さて、最初に申しました通り、百年毎の大聖年、まして千年目の大聖年に巡り合えるのは、本当にまれなことです。この大聖年といふ恵みの時に巡り合えた摂理を思ふ自身も、自分に問い合わせました。この度の大聖年は今司教としての私にとって、京都教区にとって、どんな意味があるのだろうか。今、神様は私たちに、何を望んでおられるのだろうかと。

教区で作りました大聖年のカレンダーの通り、私もこの大聖年のいろいろな行事に出席しました。そして、その一つひとつのが集いで、神さまが、京都教区に語りかけてくださる福音宣教への大きな励ましのを感じさせていただきました。

まず、教区の各地区の大聖年行事は、どれも本当に素晴らしい、意義深いものばかりでした。五月の奈良地区と、十一月の三重地区での「国際ファミリー・デー」、十

二月の京都北部の大聖年リレー完結ミサでは、特に滞日外国人の人々との連帯、多国籍の教会共同体つくりの意欲が、力強くみなぎっていました。滋賀地区的安土セミナ

リオホールでの堅信ミサとコンサートもすばらしいものでした。京都南部では、ブロックでの子供と共に捧げるミサ、環境問題にとりくむ集会、ホームレスの人々との河原でのクリスマスの集い、など、それぞれ共同宣教司牧のチームの力を生かして、有意義な取り組みでした。

その他、大聖年の京都北部でのルックアットミー、カトリック学校や各団体、施設での大聖年の行事、また、各教会ごとの巡礼の実施など。また、小さなグループや個人でも、ボランティアに積極的に参加して、全免債の深い意味を捉えて、実行されたかたも多いと思います。また、京都教区の巡礼地に指定させていただいたところに御札を申し上げたいと思います。(京都北部)宮津教会、舞鶴教会、(南部)河原町教会、衣笠カルメル女子修道院、京都フランシスコの家、(滋賀)大津教会、草津教会、(奈良)奈良教会、高田教会、(三重)四日市教会、伊勢教会の

皆様さん、一年間ひっきりなしに訪れる巡礼者に、工夫を凝らし、心温かい対応をしてくださいました。本当にありがとうございます。

このように、各地区の協議会、信徒の皆さんのがよく考え、準備し、日本人も外国籍の人もみんな生き生きと協力して、盛り上げておられる姿を見て、本当にうれしく思いました。そして、今司教として神様に感謝いたします。私は、多くの司祭、修道者を含む、こんなにも素晴らしい信徒の皆さんと共に、神様のために働くんだということを、神様は私に改めて教えてくださいましたからです。この大聖年は、心から、感謝の気持ちで、司教として勇気づけられました。

では、この大聖年感謝のミサで、今日はの集会祈願のことなどおり、すべての民の光である父なる神様に、「信仰の光によって歩む私たちを、あなたの顔を仰ぎ見る日まで、導いてください」と、心をあわせてお祈りしたいと思います。

聖体拝領が終わって、聖母マリアの歌「マグニフィカト」が歌われた後、大塚司教により、二十一世紀を迎えて、福音宣教における優先課題が発表されました。

次ページに掲載します。

(編集部)

大聖年閉幕感謝ミサ

京都教区の大聖年閉幕感謝ミサは、一月五日(金)司教座聖堂河原町教会で行われました。

大塚司教、田中司教、司祭、助祭、神学生を含めて四十名を越える方が祭壇の上に揃い、教区内のほとんどの修道士、シスターと、各教会から見えた信徒で聖堂は一杯になり、座れない人もいました。

ミサは、一月七日(日)に各小教区で行われた大聖年感謝ミサと同じ「主の公現」の祝日の典礼で行われました。大塚司教は最初に大聖年の閉幕を告げた上で、「信仰の歩みと宣教の課題への取り組みは、これから始まるのです、今日のミサは閉幕という、感謝と新たな旅立ちの式でもあります」と話されました。

京都教区の福音宣教優先課題

二〇〇一年一月五日教区閉幕感謝ミサで

大塚司教から発表された内容

京都教区の優先課題

京都教区は、21世紀を迎える次の5つを宣教の優先課題として取り組みます。

- 1 共同宣教司牧を推進して、果敢に福音宣教する教会共同体になってしまいます。
- 2 滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります。
- 3 青少年の育成に力を入れます。
- 4 信徒の生涯養成と、信徒の奉仕職を充実させていきます。
- 5 「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。

キリスト降誕二〇〇〇年大聖年を感謝のうちに閉幕し、新たな宣教の歩みを始めるにあたり、京都教区の福音宣教における優先課題を発表します。

少し説明いたします。

先ず、第一の「共同宣教司牧を推進」に関して。

なんと言っても、京都教区の最

大の課題は、共同宣教司牧の推進です。そのためには、年頭書簡で、共同宣教司牧の基本的な目的と精神といったものを書きました。

少し、長いものになりましたが、あまり要約しても、意味が伝わらないと思い、今言いたいポイントを10上げました。一回きりではなく、何度も読み返し、教会の仲間と、研修会等で、共同司牧を考えるテキストとして利用してください。

次に第二から第四までの三つの課題は、教会の共同体の形成する成員のための固有の課題です。2「滞日外国人の人々と連帯と多国籍の教会共同体作り」は、緊急的な対応の段階を終え、本格的に組織的につくり上げる段階に入っています。

祭の複数制をすでにはじめ、特にリーダーとなる青年たちとの新しい取り組みが始まっています。

4 「生涯養成、信徒の奉仕職の充実」は、主に福音センターを中心に教区として、一層の工夫と努力を重ねます。各小教区では、これをよく利用してください。

最後に、

5 「社会と共に歩む教会」は、今も有効な京都教区のビジョンであります。教区としては、福祉活動や市民運動との連携を進め、社会の正義や人権、平和の問題に取り組みます。

「みながひとつになるように」をモットーにして私は、京都教区が果たすべき使命を、少しずつ推し進めていきます。私たちは父なる神の呼びかけに従い、いただいた信仰を感謝の念を持って受けとめ、神の子としてふさわしく生きるように、これからも常に回心を重ね、聖霊の照らしに心を開いて、二十一世紀の福音宣教を力強く行っています。

3 「青少年の育成」は、担当司

聖誕二〇〇〇年市民クリスマス in 京都 二〇〇〇年十二月十七日

自分のことだけでなく周りの人の幸せを

大塚司教

今から二〇〇〇年前、長い間待たれていた救い主がこの世に生まれた最初のクリスマスの晩の出来事は、まことにひっそりとした出来事でした。神の救いの訪れを一番先に告げられたのは、当時の社会のなかで軽蔑され、嫌われていた羊飼いたちでした。

そして、救い主自身といえども、最も弱い姿の、力のない赤ちゃんとしてこの世に来られました。貧しいマリヤとヨゼフの子として、イエスの誕生を見分ける「しるし」は、「飼い葉桶」でした。

【和解の恵み】

私の司教のモットーは「皆がひとつになるよう」です。これは、キリストの最後の晩餐での父への祈りのことばです。

自分の欲望や満足のためにしか他人をみない人に、神の子、救い主の誕生の意味は見えてきません。

そこで、「飼い葉桶」に、そつと隠れて、弱々しい姿でこちらの神

の子を見つけるために、私たちは、主に三つの必要な和解があると思います。

【自分との和解】

現代人は自分自身の事を考えるのに精一杯で、それでいて自分自身を見出すことができず、自分の存在価値について自信がありません。あるいは、子供たちは勉強や特別な能力がないと、価値のない人間と扱われてしまうことに、絶望してしまいます。しかし御父はすべての人のあがないのために御子イエスを遣わされ、人間一人ひとりを、ご自分の永遠の相手として愛し、創り、名前を呼び、共に生きようとしておられるのです。

自分との和解によって、人は少しずつ自分自身の存在について安心感と自信を持ち、自分以外のものに対して心を開くことができるようになります。ですから、自分との和解は、必然的に、他人との和解へと向かいます。

自己と他者の存在の尊さを確認すれば、もうひとつ、社会全体を良くしていくことの重要性もわかつてきます。キリストは、社会の問題を研究したり、告発するという方法ではなく、人間の幸せの根本に、人と人との愛の関わりが必要であること、そのため愛の十字架を一人ひとりが担う勇気を、ご自分の十字架で教えてくださいました。私たちを取り巻く現代社会の諸問題を見渡すとき、「人間らしく生きる」ということが、いまほど切実に求められる時代もありません。ここにも、人間同士の和解が必要です。

【社会へのかかわり】

本当にありがとうございます。神に感謝です。

【二十一世紀のために自分の小さな力を】

最後に、若者の皆さんに特にお願いします。皆さん、神の愛を信じ、今という時代がどれほど困難な問題を抱えていようと、心の眼を大きく見開いて、希望と忍耐と持続力をもって自分の理想を生き生きと探求してください。

皆さん、このクリスマスの祈りで、神が私たちに真実の愛の心をくださり、自分の事だけでなく、周りの人の幸せを願い、それを実行するつよい意志を私たち一人ひとりにお与え下さるようになりましょう。

【他者との和解—愛】

たしたちが共に祈っているからです。私は、司教のモットー「皆がひとつになるよう」と言いましたが、私は、今年のクリスマスは

その存在を喜びます。愛は、さらには、他者の独自性を認め、自分との相違を認めつつ、他者との共存願いは夢に終わらず、今日実現しました。

本当にありがとうございます。神に感謝です。

ここで私は、今の私の感動をお話します。それは、キリストの二〇〇〇年目の誕生のクリスマスを、ベルで催された礼拝式での大塚司教の説教の要旨です。

京都キリスト教協議会主催で、同志社女子部栄光館ファウラー・チャペルで催された礼拝式での大塚司教の説教の要旨です。

大聖年指定行事

京都南部北ブロック

河原でクリスマスを祝おう

昨年の十二月十六日（土）京都南部地区の北ブロック（衣笠、小山、西陣、宇津、山国）は、大聖年行事として「河原でクリスマスを祝おう」と題するクリスマスキャロルを行いました。

当団は、カトリック京都混声合唱団有志の参加を得て、河原町教会においてみ言葉の祭儀を行い、大塚司教から派遣の祝福を受け、総勢八十名で三条大橋から鴨川西岸を北上、丸太町橋で折り返し対岸に戻るコースをたどり、途中の主要な地点で皆が声を合わせて歌うこと、主の降誕の喜びを人々に伝えることができました。

キャロリングをしながら、鴨川の橋のたもとで野宿しているホームレスの方にメンバーが持ち寄った温かい飲み物を差し上げながら、一緒に歌を歌ったりする場面もありました。

実を言えば、北ブロックでは炊き出しやクリスマスキャロルなど



をして、ホームレスの人々と交流し、主の降誕の喜びをこの人々と共に分かち合うという構想をもとに大聖年行事の計画を進めていました。しかし様々な事情により、当初の計画を大幅に変更せざるを得なくなりました。ただ、与えるだけのものではない。彼等・彼女等の自主性を尊重しなければならない。私たちの認識の甘さ、準備不足を露呈した結果となりました。

昨今の長引く不況の中から、なかなか脱け出せないでいる日本の社会情勢を反映して、京都市内でも住いを持たずに路上で生活する人々が増加してきていることは、様々な機会

をとらえて私たちの目にもはつきりと見えてきています。曙光回り、昼回り、病院訪問、その他の行事に参加することなどがあげられています。大聖年のあいだに私たち非常に多くの事を学ぶ恵みをいただけたと感謝しています。

キヤロルに参加した人の中には、短い時間ではあつたけれどもリクエストにこたえて「オーホーリーナイト」を神父様のアコーディオン伴奏のもと、ホームレスの方と一緒に心をあわせて歌ったことに感謝です。これからも引き続き彼等・彼女等との関わり合いを深めていきことにしています。具体的には、ホームレスの方々で運営されている「希望の会」と連携を取りながら夜回り、昼回り、病院訪問、その他の行事に参加することなどがあげられています。大聖年のあいだに私たち非常に多くの事を学ぶ恵みをいただけたと感謝しています。

ご協力いただいた方に感謝申し上げ、これからもブロック内外を問わず広く多くの方々との心の一一致とご協力を願いし、報告いたします。

奈良地区南部ブロック 共同宣教司牧

ビジョン宣言 および司牧計画

奈良地区南部ブロック担当チー

ム(ピーター・ウイックス神父、ジョン・ヒル神父、シスター・エリザベト・マルタンとわたし)は、一九九九年の四月から、共同宣教司牧を推進するためには、いか話し合いを始めました。わたしたちは第一段階はチームとしての目的を明確にすることが必要ということがわかるようになります。それで、「ビジョン宣言」を作ろうと決定しました。方法は、毎週のチームミーティングで、「トレーニング」として一人一人の考え方を分かち合うことで大切な基準、結局皆が賛成できる形が浮かんできました。わたし達は、「ビジョン宣言」はわたくしの長期の方針を表現するもので、いつも自分に思い起こさせるものだと思っていたので、「ビジョン宣言」を作る大切な基準のひとつは、できるだけ短い、暗記

できる文章にする決まりました。この「ビジョン宣言」はチームが将来の教会に対し希望していることを表すものです。

次の段階は、その「ヴィジョン宣言」に基づく具体的な一年間の「司牧計画」を作ることでした。

「ビジョン宣言」と違つて、この「司牧計画」は夢または理想を現すものではなく、わたしたちがこの一年間の間に実行しようとしての目的を明確にすることです。この計画の時期が終わるときに、この計画が終わるときには評価することが必要と思います。たとえば、「計画に書いたことはできましたか」、「できなかつたら、どうしてでしょう」という質問を使います。「司牧計画」が終わると次の一年間、または二年間の「司牧計画」を作る予定です。

ビジョンと司牧計画をつくる体験から、チームのメンバーがたくさん学びました。ですから、このブロックの四小教会の信者に自分のビジョン宣言と司牧計画を進めました。今年の復活節から各教会の二番目の「司牧計画」が実施される予定です。

担当チームの代表キース・タロク

カトリック奈良地区南ブロック 共同宣教司牧チーム 司牧計画



司牧チームのビジョン宣言

わたしたちは、各小教区の信徒たちが、特に役員会や祈りのグループを通して自己刷新のため、また「奉仕するキリスト共同体」を作る方法を見つけるために、わたしたちと一致協力して働く教会を目指しています。

わたしたちは、共に学ぶことによって、この「奉仕するキリスト共同体」が少しづつ作られるように、信徒が皆心を新たにして、キリストを証することもできるよう

目指しています。

わたしたちは、各小教区の信徒が他の三つの小教区の人々と緊密な交わりを保ちつつ、それぞれのもつ豊かな才能を分かち合い、「心と思いを一つにする」共同体づくりのために、お互いに助け合うことを希望しています。

シスター・エリザベト
ピーター・ウイックス神父
ジョン・ヒル神父
キース・タロク神父

私たち司牧チームは、可能な限り、毎週火曜日の朝、カトリック奈良地区南部4教会の司牧について分かち合いの集会を持っていますが、今年は、下記のことを確認し、実行したいと思います。

- この大型年の期間、機会あるたび、説教や講話の中で、必ず「自己刷新の勧めについて」を話すことを心掛けます。
- 小教区の「ビジョン宣言」と「司牧計画」を、あらゆる機会を通して信徒の注意を促すよう努めます。
- 各小教区の役員会には、司牧チームの一人が代表者として参加すること大切にします。この代表者は、司牧チームの司牧内容(仕事と希望方針)を役員会に報告します。

告すると共に、又、その役員会の内容は、次期の「司牧チームミーティング」の一項目に採用されます。

- 昨年行われた「祈りのコース」を、今年度も少なくとも一回開く予定です。
- 小教区内の信徒の中から病人や、家にこもりがちな信徒方の訪問を、下記のように改善したいと思います。

- 各小教区から2名の「病人訪問奉仕者」を任命します。この奉仕者は、把握した状況を司牧チームに連絡すると共に、「訪問一覧表」を作成します。
- 私たちは、「訪問一覧表」に、訪問先・訪問日時・訪問者名を記入します。
- 私たちは、数人の信徒グループと共に、病人・家を出られない人に、祈るために、訪問する予定です。

- 各小教区には、それぞれ小教区のヴィジョンに想像される教会の実現方法を探るため、誰でも参加できる「祈りのグループ」を作ります。

(八木教会:シスター・エリザベト・高田教会:ウイックス神父・御所教会:ヒル神父・西大和教会:タロク神父)。

(これは16項目ある計画のパンフレットの一部を、編集部でまとめたものです。)

「女性国際戦犯法廷」が開く未来への扉

ノートルダム教育修道女会 鎌田論珠

「過去を振り返ることは未来に對して責任をなうことです。」

今から丁度二十年前に来日された教皇ヨハネ・パウロ二世の平和アピールのこの言葉は、カトリック教会ばかりでなく広く社会の多くの人々の心に、未来への測り知れない希望と希望を実現させようと強い意志を呼び覚ました。ドイツのヴァイツェッカー元大統領も、第二次世界大戦敗戦四十年にあたり、ドイツ国会での記念演説で「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」と述べています。

二〇〇〇年十二月八日から十二日まで東京で開かれた「女性国際戦犯法廷」は、まさにこの呼びかけに応えるものであったのです。「法廷」は、日本軍性奴隸制度(慰安婦)制度)を裁いて、この

制度が女性に対する戦争犯罪、人道に対する罪であることを明らかにすると同時に、この制度を企画・運営・維持した日本政府と特定の高官の責任を問い合わせることを目指していました。この「法廷」は「戦争と女性への暴力」日本ネットワークの呼びかけで組織された国際実行委員会が主催する民間

「法廷」です。「判決」に拘束力はありません。第二次世界大戦が終わって五十五年も経ち、昭和天皇をはじめとする当時の責任者は全て故人になっています。「今更このようない法廷が何になるのか」、「何も処罰までしなくとも……」というのが多く日本人の思いではないでしょうか。教皇ヨハネ・パウロ二世とヴァイツェッカーの言葉にこの問いへの応えが見出されます。ヴァイツェッカーはまた、「心に刻むとは、ある出来事が自らの内面の一部となるよう誠実に純粹にこれを思い浮かべることだ。このために眞実を知ることが必要

なのだ」とも言っています。「法廷」は、あの出来事を心に刻むため真実を究明し、二十万人とも言われる被害女性に対して犯された罪がどのような重みを持つものであつたかを人類の共通認識とすることを目指したのです。

「法廷」には、歴史の新たな扉を開くエネルギーがあふれています。まず第一に九カ国からの七十二名の被害証言です。十四歳から十七歳、中には七歳や十歳ですでに被害にあった女性にとっては「慰安婦」としての苦しみが人生そのものでした。言葉も文化も違う彼女たちが通訳を通してはじめて聴く互いの体験が余りにも似通っていることは驚きであり、国境を越えて苦しみを共感し合える連帯の輪がそこに広がりました。また、十一日には「現代の紛争下における女性への性犯罪国際公聴会」が開かれました。このため世界十七カ国から集まつた被害女性たちは

判決全文は三月八日の国際女性デーに公表されますが、それが終わりではありません。すでに発足に向けて動いている国際刑事裁判所において、更に目標達成への努力が続けられるでしょう。これらの努力が人間の尊厳の思想を発展させ、未来への扉を開かせるのです。

その苦しみに耳を傾けることで連帯の輪は更に世代を越えて広がりました。同時に五十余年も孤独のうちに耐えてきた「慰安婦」女性の苦しみの深さを改めて思い知る

体験でもあつたのです。エネルギーのもうひとつの源は証拠の量と質です。敗戦と同時に日本軍と日本政府が戦争犯罪の証拠によるような物件を可能な限り滅却してしまったにもかかわらず、国際的な協力と膨大な作業によってジクソーパズルのように手紙・日誌・指令・写真等が収集・分析され、説得力のある証拠が蓄積されたのです。世界的に活躍する国際法学者をはじめ各方面の専門家や一般市民が、「女性に対する戦時性暴力『不处罚』を終わらせよう」と力を合わせて実現させたこの「法廷」には、未来を拓く確かな手ごたえがありました。

共同宣教司牧地区 および司祭の異動

I、共同宣教司牧地区の新設（四月十六日付）

II、共同宣教司牧地区の組替え
(四月十六日付)

京都南部地区西プロック「桂・九条・丹波・亀岡聖堂・園部聖堂」・長岡の四小教区を「京都南部地区西プロック共同宣教司牧」とする。

三、地区長の任命（五月一日付）

地区長 谷口秀夫師

地区長 東門陽二郎師

地区長
瀧野正三郎師

奈良地区

| 地区長 | キース・タロク師 |
|-------------------------------------|---|
| 三重地区 | |
| 地区長 | ロバート・ネリグ師 |
| V、司祭の異動（四月十六日付） | IV、宗教法人責任役員の任命（五月一日付） |
| 職務上役員 村上真理雄師（司教 總代理）、森田直樹師（事務局長） | 職務上役員 村上真理雄師（司教 司教任命役員 松本秀友師、柳本 昭師 |
| 小教区担当司祭の転任 | 花井拓夫師（旧任命 田辺・精華 主任）京都南部地区北ブロック共 同宣教司牧（衣笠・小山・西院・ 西陣・宇津・山国） 担当司祭 ルカ・ホルステイング師（旧任命 衣笠・小山・西陣・宇津・山国 共同宣教司牧担当）京都南部地区 北ブロック共同宣教司牧（衣笠・ 小山・西院・西陣・宇津・山国） 担当司祭 ヴィレハド・チネ力師（旧任命 衣笠・小山・西陣・宇津・山国 共同宣教司牧協力）京都南部地区 北ブロック共同宣教司牧（衣笠・ 小山・西院・西陣・宇津・山国） 協力司祭 北村善朗師（旧任命 青谷・宇治 主任）青谷・宇治・精華・田辺 |

ル会東京本部付) 滋賀湖東ブロック
ク共同宣教司牧 担当司祭(着任
は六月一日付)

◆京都キリスト研究会 ▼定例
会25日(日)14時

◆聖ビンセンシオ・ア・パウロ会
▼河原町協議会11日(日) ▼京都

中央理事会18日(日)何れも13時半
河原町教会

◆在世フランシスコ会京都兄弟会
第3土曜日13時半フランシスコの

家 □在世フランシスコ会京都兄弟会
2、第4、第5木曜日10時~12時

河原町教会地下ホール
◆京都カトリック混声合唱団 ▼

練習日11日(日)14時、24日(土)19時
河原町会館六階
◆コーエチエレステ ▼練習日第
2、第4、第5木曜日10時~12時

お 知 ら せ

◆シスター・メリーラドロレス石崎保子(ノートルダム教育修道女会)が昨年12月帰天されました。66歳でした。永遠の安息のためにお祈りください。

◆シスター・メリーラドロレス石崎保子(ノートルダム教育修道女会)が昨年12月帰天されました。66歳でした。永遠の安息のためにお祈りください。

◆「インドへ友愛の手を!」 チャ

リティーコンサート報告・お礼

12月3日「アルティ」にて開催し
ました演奏会の収益金はちょうど
80万円になり、「インドへ友愛の
手を!」事務局へ寄付致しました。

ご協力に心から厚くお礼申し上げ
ます。(主催者)

◆「一万匹の蠍運動」基金報告
累計27、824、809円、
加入者861名(1月16日現在)

◆日本二十六聖人顕彰ミサ
2月4日(日)午後2時から、フ

ランシスコの家で大塚司教の司式
により行われました。フランシス
コ会のハイシリップ師、ルカ師、
チネカ師とともに一〇〇人を越え

る人たちが、古くて珍しい二十六
聖人の映画のビデオを見た後、ミ
サを捧げて、改めて二十六聖人の
殉教を思い起こしました。

大塚司教は、新大久保でホーム
から転落した人を助けようとして
犠牲になつた人のことなどの話の
例を引いて、「自分に与えられた
ものを主にかえすことが、死ぬこ
と、すなわち生きていく意味であ
る」と説かれました。

◆シスター・メリーラドロレス石

崎保子(ノートルダム教育修道女
会)が昨年12月帰天されました。

66歳でした。永遠の安息のために
お祈りください。

良書紹介

私たちの信仰生活に、潤いと
希望を与える、分かりやすい良

書を紹介します。

祈りについて、病にある人と
のかかわりについて、それぞれ

一冊ずつ選びました(編集者)。

◆病にある人とのかかわり
京都カトリック福音センター編
『病人訪問(いやされるかかわ
り)』

◆神様とお話ししてみませんか
N・ドナルド・ウォルシュ著
吉田利子訳
『神との対話』
サンマーク出版 1997

★神様とお話ししてみませんか
N・ドナルド・ウォルシュ著
吉田利子訳
『神との対話』
サンマーク出版 1997

この本は、一九九一年に京都
福音センターから発行された信
徒使徒職養成シリーズ「病人司
牧のために」の続編にあたりま
す。

税別千八百円。

税別六百円。

天塚司教の

3月のスケジュール

| | | | |
|---------|----------------------------|---------|-------------------------|
| 1日 (木) | 司教顧問会・責任役員会 10時 | 17日 (土) | 聖母小学校卒業式 10時 |
| 3日 (土) | 教区カトリック協議会 14時 | 18日 (日) | 奥村助祭叙階式(伏見) 15時 |
| 4日 (日) | 教区合同洗礼志願式 14時半 | 20日 (火) | 鈴鹿教会5周年 10時 |
| 5日 (月) | 長岡幼稚園感謝の祈り 10時 | 21日 (水) | カリタス会理事会 14時 |
| 6日 (火) | 7日 (水) 東京カトリック神学院年次総括会 15時 | 22日 (木) | 司教顧問会・責任役員会・新地区長説明会 10時 |
| 7日 (水) | K・K(機構改革)委員会 15時 | 23日 (金) | 教区幼稚園保育者研修会 10時 |
| 8日 (木) | 常任司教委員会 10時 | 25日 (日) | 青少年委員会 18時 |
| 9日 (金) | 正義と平和協議会事務局会議 16時 | 26日 (月) | 31日 (土) アド・リ |
| 10日 (月) | 日韓歴史勉強会 18時 | 28日 (水) | 聖香油ミサ 10時半 (田中司教司式) |
| 11日 (火) | 正平協運営委員会 9時 | | |
| 12日 (水) | 滋賀学法理事会 14時 | | |
| 13日 (木) | 聖母短大卒業式 10時 | | |
| 14日 (水) | 大阪京都合同顧問会 15時 | | |
| 15日 (木) | 京都・京都南学法理事会 14時 | | |
| | ノートルダム小学校卒業式 | | |

◆編集部から
お知らせに載せたい情報は、5月号は3月19日、6月号は4月17日までに、京都教区事務所内「京都教区時報宛」にお願いします。

業式 10時

青年センター

専従 佐藤紀子

この一年間を振り返り、私は青年センターの専従として何をしてきたのでしょうか。何もしてこなかった。

青年センターが本来持つべき姿、カトリックの施設としての業務に対して、私は何も出来ませんでした。しかし、この一年を通じて、現代社会における青年達の現状というものが、分か

るようになつた気がします。今、このような社会の中で、青年達は一体何を考えているのでしょうか。神をどうとらえ、キリストとどのように関わろうとしているのでしょうか。

こたえは、私にも分かりません。
アド・リミナとは世界中の司教が国別に五年毎に行っているローマ訪問。司教はペトロとパウロの墓に巡礼し、一人ひとり自分の司教区について教皇に報告する(新カトリック大辞典から)。

幼児洗礼

これは、今の青年を語るときに欠かせない言葉です。気が付ければカトリックであった。そして、私たちには信仰が与えられていた。与えられた信仰は生涯の歩みの中で育まれていくものではないでしょうか。そして、今の青年達に欠けているものは、

その過程の中での“神との出会い”ではないでしょうか。私は聖書を通して、神の存在を知ることは出来ます。しかし、その存在は知っていても、自分と神との直接的な接点がない。つまり、神に對して背を向けているのです。その存在を知りながら、与えられていることを知りながら、背を向けてしまいます。それを向き会う、“神と出会い”機会がないのではないでありますか。

信仰とは、神との出会いを通して、私が変えられていくことではないでしょうか。少なくともこの一年を通して、私は変えられました。変えられた私が青年センターの専従としてできることがあります。私はできることは、神に対して素直に「はい」と言うことぐらいではないでしょうか。必要なことを必要な時に必要な方法でなさる神に向かって、正面を向いて「はい」とこたえること。